

創生応用医学研究センター (ART)



東北大学理事(研究担当) 伊藤貞嘉

東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター (ART) は数年前、宮田敏男センター長により、プロジェクト志向の横断的な研究組織に改組されました。特定の研究テーマに関連する研究者が基礎・臨床・分野・教室・研究科・学部などの壁を越え、東北大学外からも広く集まり研究者集団であるコアセンターを形成しており、現在14のコアセンターが創生応用医学研究センターに所属しています。現代、研究が高度に専門的になるに反して、異分野との交流が不可欠

期待するもの

東北大学においては、基礎研究から臨床応用・実用化までを連続して支援する学際組織であるメタ・リサーチセンターが、今後成果を上げるためには、創生応用医学研究センターと臨床研究推進センターの協働が欠かせません。創生応用医学研究センターが先駆的で、かつ、極めて柔軟な組織として機能し、横断的な連携を推進して、優れたプロジェクト研究がどんどん創生されることを期待します。

気概あふれる若き研究者へ



東北大学医学系研究科長 大内憲明

野融合を効率的に進める横断的研究組織としております。循環器・脳神経・がん・酸素代謝・免疫・メタボリックシンドローム・腎臓・産婦人科・感覚器・スポーツ医学など幅広い分野に注力するコアセンター群、低分子創薬・細胞治療・医療デバイス等治療法に発展させるコアセンター群など14のユニークなコアセンターを擁する研究組織です。薬学研究所、歯学研究所、加齢医学研究所、工学研究所からも多くの研究者が参画いただき、まさに学際融合領域研究を展開できる組織になりました。

東北大学は、建学時からの理念である研究第一・門戸開放、実学尊重の精神に基づき、医学の先進的かつ主体的教育を推進してまいりますが、総合大学としての特徴を活かし、「基礎から臨床まで研究成果をシームレスに医療へ応用できる力」、言うなれば総合力を発揮できるような体制をより強化しています。私たちが医学系研究科・医学部は、「この精神に基づいて、「医学の先進的、学際的、創造的研究を推進し、国際的に通用する優れた研究者および高度な医学的知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた医療保健の指導・実践者を

次世代の医学・医療の礎として

野融合を効率的に進める横断的研究組織としております。循環器・脳神経・がん・酸素代謝・免疫・メタボリックシンドローム・腎臓・産婦人科・感覚器・スポーツ医学など幅広い分野に注力するコアセンター群、低分子創薬・細胞治療・医療デバイス等治療法に発展させるコアセンター群など14のユニークなコアセンターを擁する研究組織です。薬学研究所、歯学研究所、加齢医学研究所、工学研究所からも多くの研究者が参画いただき、まさに学際融合領域研究を展開できる組織になりました。



創生応用医学研究センター長 宮田敏男

何をめざすのか

平成26年8月に公表された東北大学里見ヒジムのコンセプトは「人が集い、学び、創造する、世界に開かれた知の共同体」です。まさに東北大学大学院医学系研究科創生応用医学研究センター (創生センター) の目指すところでもあります。新たな最先端の学際領域研究に挑戦し、成果を上げるためには、生物学のみならず構造物学、臨床医学、化学、薬学、プロジェクト群を「コアセンター」としてユニット化し、多くの異分野学問を融合し、

挑戦し新時代を開拓できる柔軟な研究組織でありたい

創生センターでは、アカデミアの利点であるおらかな「オープンイノベーション」に基づき、学内外 (民間も含め) の多くの研究者が集う柔軟な研究組織として運営されています。ミッションや研究のベクトルを共有する横断的ネットワークを構築し、互いに刺激し合い、新たな発見を生み出すことを目指しています。また、長年にわたる臨床研究の蓄積が、基礎研究の成果を臨床応用へとつなげる重要な使命です。

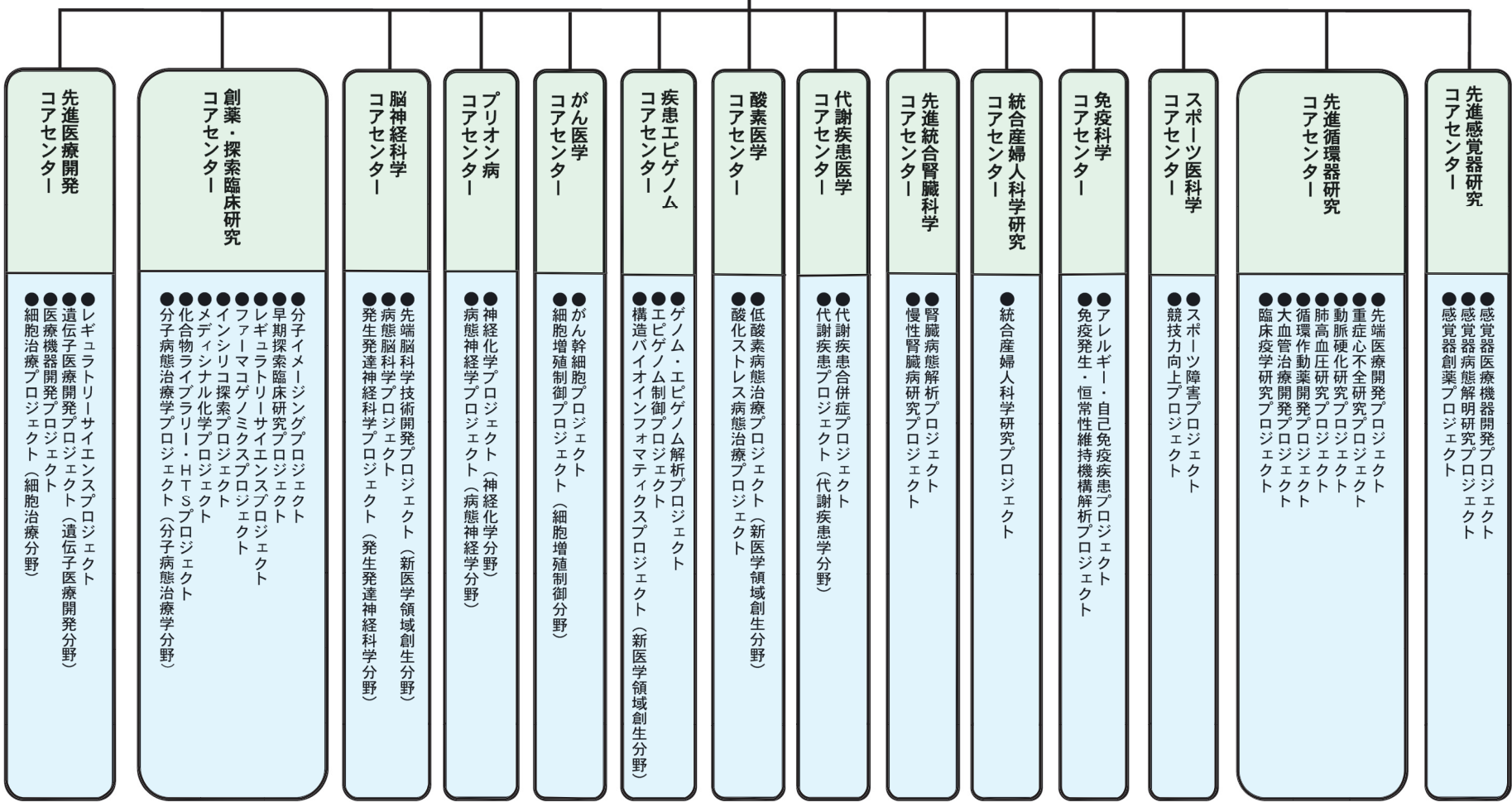
創生センターでは、臨床研究推進センター (CRIETO) と連携し、基礎研究から臨床応用までを連続して支援する学際組織を構築しています。創生センターが先駆的で、かつ、極めて柔軟な組織として機能し、横断的な連携を推進して、優れたプロジェクト研究がどんどん創生されることを期待します。

臨床研究の好環境整備進む



創生センターでは、アカデミアの利点であるおらかな「オープンイノベーション」に基づき、学内外 (民間も含め) の多くの研究者が集う柔軟な研究組織として運営されています。ミッションや研究のベクトルを共有する横断的ネットワークを構築し、互いに刺激し合い、新たな発見を生み出すことを目指しています。また、長年にわたる臨床研究の蓄積が、基礎研究の成果を臨床応用へとつなげる重要な使命です。

東北大学大学院医学系研究科附属創生応用医学研究センター



野融合を効率的に進める横断的研究組織としております。循環器・脳神経・がん・酸素代謝・免疫・メタボリックシンドローム・腎臓・産婦人科・感覚器・スポーツ医学など幅広い分野に注力するコアセンター群、低分子創薬・細胞治療・医療デバイス等治療法に発展させるコアセンター群など14のユニークなコアセンターを擁する研究組織です。薬学研究所、歯学研究所、加齢医学研究所、工学研究所からも多くの研究者が参画いただき、まさに学際融合領域研究を展開できる組織になりました。

産学連携、知的財産、研究活動を支援したい

統括産学連携室は、専門性の高いスタッフが創生応用医学研究センターの産学連携、知的財産、研究活動を支援することを目的として、3年前に設置されました。スタッフには、弁理士、特許庁審査官経験者、製薬企業出身者、薬事規制専門家らを招聘しました。創生応用医学研究センターの研究活動が多岐にわたっています。統括産学連携室が設置されたことにより、学部や本部からの支援に加えて、さらに迅速できめ細やかな対応ができるようになりました。

現在では、薬事規制に関する業務は「東北大学医薬品レギュラトリーサイエンス推進室」(RS推進室)として分離し医薬連携で活動しています。橋渡し業務は東北大学病院臨床研究推進センター (CRIETO) が中心に運営

1つの例として、ファーマコゲノミクスを活用した個別化の医師主導治験 (未承認薬) などを実現する学内横断的な試みを支援していますが、これは、橋渡し業務は東北大学病院臨床研究推進センター (CRIETO) が中心に運営

なくはならず、さらに大型プロジェクト間の連携や融合的波及効果も視野に入れないでほしいです。ですからuniversity research administrator (URA) 機能も担わなくてはなりません。

創生応用医学研究センターの横断的融合研究から、将来のイノベーションにつながるユニークな研究の一つでも多く花開くことを目指して、今後も支援して参ります。



統括産学連携室 赤堀浩司 宮田和彦

◆赤堀浩司 創生応用医学研究センター特任准教授 1999年京都大学理学部博士課程修了。ポストドク、特許事務所勤務を経て、2007年東北大学産学連携推進本部長。2011年より創生応用医学研究センター統括産学連携室長。弁理士。